

【令和2年度評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理等

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター

項目 No.	R2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証(案)																																
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点(●) 	自己評価																																	
01	<p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保 長期的に安定した運営に必要な医療従事者等を確保するため、計画的・効果的な職員採用に努める。 また、働き方改革に向けたタスク・シフト(シェア)を進めるため、医師事務作業補助者、看護補助者等の配置を充実させる。</p> <p>3 医師、看護師、コメディカル等の人材育成の充実 【医師】 信州大学医学部附属病院(小児ゲノム領域)等国内外先進病院への研修派遣により、優れた医師を養成する。 また、高度専門医療の水準の維持・向上のため、専門医や研修指導医等の取得に向けた研修体制の充実(各種学会や研修会参加支援等)を図る。</p> <p>【看護師】 より水準の高い看護を提供するため、認定看護師や専門看護師、特定行為看護師等の資格取得又は認定看護管理者の資格取得を目指す看護師に対しては、中長期的に研修・講習に参加できる体制を引き続き確保する。また、特定行為看護師については、特定行為看護師指定研修機関(外科</p>	<p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師の確保については、年度途中の退職者を見込み年度当初に100人、年度途中1人採用することで、長時間勤務やローテーション維持等についての改善を図るとともに、診療報酬の要件である7:1看護体制を上回る体制を確保できた。 ・定年退職した医師を再雇用することで、人員の確保に努めた。 <p>○医療従事者の確保状況 単位:人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常勤医師数</td> <td>175</td> <td>180</td> <td>182</td> </tr> <tr> <td>うち再雇用医師</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>常勤歯科医師数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>常勤看護師数</td> <td>613</td> <td>652</td> <td>691</td> </tr> <tr> <td>常勤コメディカル数</td> <td>217</td> <td>231</td> <td>254</td> </tr> <tr> <td>医療クラーク</td> <td>56</td> <td>59</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>看護補助職員</td> <td>98</td> <td>104</td> <td>96</td> </tr> </tbody> </table> <p>※年度末現在</p> <p>3 医師、看護師、コメディカル等の人材育成の充実 【医師】 ・高度専門医療の水準の維持・向上のため、専門医や研修指導医等の取得に向けた研修体制の充実を図ったが、COVID-19の影響により派遣実績数</p>	項目/年度	2018	2019	2020	常勤医師数	175	180	182	うち再雇用医師	3	5	7	常勤歯科医師数	3	3	4	常勤看護師数	613	652	691	常勤コメディカル数	217	231	254	医療クラーク	56	59	55	看護補助職員	98	104	96	IV	<p>救急の外部コンサルが医療の質の確保に役立っているとのことで、有用な試みと思われる。</p> <p>COVID-19により研究の実績が悪化したが、医療従事者の確保が十分できている点は評価できる。</p>
項目/年度	2018	2019	2020																																	
常勤医師数	175	180	182																																	
うち再雇用医師	3	5	7																																	
常勤歯科医師数	3	3	4																																	
常勤看護師数	613	652	691																																	
常勤コメディカル数	217	231	254																																	
医療クラーク	56	59	55																																	
看護補助職員	98	104	96																																	

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		自己 評価	評価委員会の検証（案）																																																																													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																																																																
	術後病棟管理領域パッケージ) の認定を目指し、自前で育成ができる体制を整備する。 ・2020年度 受講予定 専門看護師1人(がん看護)、認定遺伝カウンセラー1人(2年目)、認定看護師1人(感染管理)、特定行為看護師2人(急性期診療モデル2人)、認定看護管理者7人(ファーストレベル4人、セカンドレベル2人、サードレベル1人) ・2020年度 資格試験予定 認定看護師3人(がん性疼痛看護1人、手術看護2人) 【コメディカル】 診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師等の医療技術者について、専門性の向上に向けた研修・講習会への参加を支援し、高度医療に対する知識・技術を有する職員を養成する。 6 ICT(情報通信技術)やAI(人工知能)等の活用 準夜帯や深夜帯における放射線専門医による画像コンサルテーションを引き続き実施するとともに、画像診断や内視鏡検査等におけるICTやAIの動向を注視し、活用を検討することにより、医師の負担軽減を図り、より安全かつ質の高い医療を提供できるよう努める。	は減少した。 ○医師の研修派遣・受入実績 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>受入</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> ○専門医や研修指導医等の取得に向けた研修、学会・セミナー等の派遣実績 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>877</td> <td>843</td> <td>563</td> </tr> </tbody> </table> 【看護師】 ・認定看護師等長期研修5カ年計画に基づき、計画的に認定看護師や専門看護師の資格取得のための研修・講習に参加できる体制を確保した。また、2020年8月に看護師特定行為研修指定研修機関に認定され、当センターの看護師に加え、外部の看護師を受け入れる等、特定行為看護師を育成できる体制を整備した。 ○認定看護師等資格取得者在籍状況 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>がん化学療法</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>がん性疼痛</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>感染管理</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>救急看護</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>小児救急</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>摂食・嚥下障害</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>皮膚・排泄ケア</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>新生児集中ケア</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>集中ケア</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>糖尿病看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>がん放射線療法看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>乳がん看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>認定看護管理者</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2018	2019	2020	派遣	3	1	2	受入	3	2	3	2018	2019	2020	877	843	563	項目/年度	2018	2019	2020	認定				がん化学療法	2	3	3	がん性疼痛	1	1	2	感染管理	3	3	3	救急看護	2	2	2	小児救急	1	1	1	摂食・嚥下障害	1	1	1	皮膚・排泄ケア	3	3	3	新生児集中ケア	1	2	2	集中ケア	3	3	2	糖尿病看護	1	1	1	がん放射線療法看護	1	1	1	乳がん看護	1	1	1	認定看護管理者	2	2	2		
項目/年度	2018	2019	2020																																																																															
派遣	3	1	2																																																																															
受入	3	2	3																																																																															
2018	2019	2020																																																																																
877	843	563																																																																																
項目/年度	2018	2019	2020																																																																															
認定																																																																																		
がん化学療法	2	3	3																																																																															
がん性疼痛	1	1	2																																																																															
感染管理	3	3	3																																																																															
救急看護	2	2	2																																																																															
小児救急	1	1	1																																																																															
摂食・嚥下障害	1	1	1																																																																															
皮膚・排泄ケア	3	3	3																																																																															
新生児集中ケア	1	2	2																																																																															
集中ケア	3	3	2																																																																															
糖尿病看護	1	1	1																																																																															
がん放射線療法看護	1	1	1																																																																															
乳がん看護	1	1	1																																																																															
認定看護管理者	2	2	2																																																																															

項目 No.	R 2 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				自己 評価	評価委員会の検証（案）	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）						
		慢性心不全	1	1	1			
		緩和ケア	1	1	1			
		認知症	2	2	2			
		脳卒中リハビリテーション	0	1	1			
		手術看護	0	0	1			
		精神科看護	0	0	1			
		計	26	29	31			
		専門						
		小児看護	2	2	2			
		がん看護	1	1	1			
		計	3	3	3			
		特定						
		創傷管理モデル	0	1	1			
		術中麻酔管理モデル	0	0	2			
		計	0	1	3			
		合計	29	33	37			
		○研修実績						
		項目	内容					
		認定看護師	【長期】 ・なし					
			【短期】				単位：人	
				2018	2019	2020		
			認定看護管理者（1st）	4	4	0		
			認定看護管理者（2nd）	1	0	0		
		認定看護管理者（3rd）	1	1	0			
		医療安全研修	1	1	2			
		COVID-19感染拡大により、集合研修やセミナーの開催が中止となり、計画通りにいかなかった。						
		学会等参加	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護学会 ・日本看護協会研修 ・岐阜県看護協会研修 ・研修会、セミナー ・その他 看護学会等 					

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																								
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">2018</td> <td style="text-align: center;">2019</td> <td style="text-align: center;">2020</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">参加延べ数</td> <td style="text-align: center;">835</td> <td style="text-align: center;">852</td> <td style="text-align: center;">270</td> </tr> </table> <p>COVID-19感染拡大により、集合研修やセミナーの開催が中止となり、計画通りにいかなかった。</p>				2018	2019	2020	参加延べ数	835	852	270																														
	2018	2019	2020																																							
参加延べ数	835	852	270																																							
		<p>【コメディカル】</p> <p>・診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師等の医療技術者について、専門性の向上に向けた研修・講習会への参加を支援し、高度医療に対する知識・技術を有する職員を養成したが、COVID-19の影響で参加者数は減少した。</p> <p>○専門研修への参加状況 単位：人</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師</td> <td style="text-align: center;">277</td> <td style="text-align: center;">239</td> <td style="text-align: center;">246</td> </tr> <tr> <td>臨床 ：中央検査部</td> <td style="text-align: center;">127</td> <td style="text-align: center;">117</td> <td style="text-align: center;">32</td> </tr> <tr> <td>検査技師：病理部</td> <td style="text-align: center;">41</td> <td style="text-align: center;">31</td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td style="text-align: center;">40</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>リハビリ技師</td> <td style="text-align: center;">42</td> <td style="text-align: center;">36</td> <td style="text-align: center;">42</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td style="text-align: center;">236</td> <td style="text-align: center;">163</td> <td style="text-align: center;">52</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">758</td> <td style="text-align: center;">639</td> <td style="text-align: center;">398</td> </tr> </tbody> </table> <p>○主な専門研修・講習会等</p> <p>【中央放射線部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本放射線技術学会 ・全国自治体病院放射線部会研修会 ・日本放射線治療セミナー ・日本核医学学術総会 ・日本磁気共鳴医学会 ・医学物理士ミニマム講習会 ・診療放射線技師実習施設指導者等養成講習会 ・業務拡大に伴う統一講習会 			項目／年度	2018	2019	2020	薬剤師	277	239	246	臨床 ：中央検査部	127	117	32	検査技師：病理部	41	31	20	臨床工学技士	20	40	4	リハビリ技師	42	36	42	管理栄養士	15	13	2	放射線技師	236	163	52	合計	758	639	398		
項目／年度	2018	2019	2020																																							
薬剤師	277	239	246																																							
臨床 ：中央検査部	127	117	32																																							
検査技師：病理部	41	31	20																																							
臨床工学技士	20	40	4																																							
リハビリ技師	42	36	42																																							
管理栄養士	15	13	2																																							
放射線技師	236	163	52																																							
合計	758	639	398																																							

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																								
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																												
		<ul style="list-style-type: none"> ・PET 研修セミナー ・医療安全管理者養成研修会 ・画像等手術支援認定講習会 																												
		※資格取得者数（年度末） 単位：人 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>資格名／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アドバンス診療放射線技師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>放射線被曝相談員</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>X線CT認定技師</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>放射線機器管理士</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>			資格名／年度	2018	2019	2020	アドバンス診療放射線技師	2	2	3	放射線被曝相談員	0	1	1	X線CT認定技師	2	4	5	放射線機器管理士	2	2	3						
資格名／年度	2018	2019	2020																											
アドバンス診療放射線技師	2	2	3																											
放射線被曝相談員	0	1	1																											
X線CT認定技師	2	4	5																											
放射線機器管理士	2	2	3																											
		※2020 年度新規資格取得者 ・アドバンス診療放射線技師 1人																												
		【中央検査部】 <ul style="list-style-type: none"> ・日本臨床衛生検査技師会 ・日本超音波医学会 ・日本超音波検査学会 ・心臓リハビリテーション学会 ・日本臨床微生物学会 ・日本臨床検査医学会 ・日本輸血・細胞治療学会 ・日本心エコー学会 ・日本検査血液学会 ・全国自治体病院学会 ・岐阜県病院協会医学会 																												
		※資格取得者数（年度末） 単位：人 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>資格名／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超音波検査士（循環器領域）</td> <td>24</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>認定心電図専門士</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>緊急臨床検査士</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>認定血液検査技師等</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>心臓リハビリテーション指導士</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>			資格名／年度	2018	2019	2020	超音波検査士（循環器領域）	24	28	28	認定心電図専門士	3	5	5	緊急臨床検査士	8	10	10	認定血液検査技師等	7	7	7	心臓リハビリテーション指導士	2	2	2		
資格名／年度	2018	2019	2020																											
超音波検査士（循環器領域）	24	28	28																											
認定心電図専門士	3	5	5																											
緊急臨床検査士	8	10	10																											
認定血液検査技師等	7	7	7																											
心臓リハビリテーション指導士	2	2	2																											
		※2020 年度新規資格取得者 なし																												
		【病理部】																												

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																																
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・日本臨床衛生検査技師会 ・日本臨床細胞学会 ・認定病理検査技師講習会 ※資格取得者数（年度末） 単位：人 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>資格名／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定病理検査技師</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>細胞検査士</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>二級臨床検査士（病理学）</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>検体採取等の講習会修了者</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> ※2020年度新規資格取得者 なし			資格名／年度	2018	2019	2020	認定病理検査技師	1	2	3	細胞検査士	6	7	8	二級臨床検査士（病理学）	1	1	1	検体採取等の講習会修了者	3	5	6														
資格名／年度	2018	2019	2020																																			
認定病理検査技師	1	2	3																																			
細胞検査士	6	7	8																																			
二級臨床検査士（病理学）	1	1	1																																			
検体採取等の講習会修了者	3	5	6																																			
		【薬剤部】 <ul style="list-style-type: none"> ・日本医療薬学会年会 ・日病薬 日薬東海ブロック合同学術大会 ・日本麻酔科学会 周術期セミナー ・岐阜県病院薬剤師会研修会 ・日本小児臨床薬理学会 ・日本化学療法学会 ・日本臨床救急医学会 ・日本腎臓病薬物療法学会 ・がん専門薬剤師集中教育講座 ・日本臨床腫瘍薬学会 ・日本循環器学会学術集会 ・CAI 研修セミナー ※資格取得者数（年度末） 単位：人 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>資格名／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染制御認定薬剤師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>抗菌化学療法認定薬剤師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>日病薬 病院薬学認定薬剤師</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>がん専門薬剤師</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>緩和薬物療法認定薬剤師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日本糖尿病療養指導士</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>周術期管理チーム認定薬剤師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>			資格名／年度	2018	2019	2020	感染制御認定薬剤師	2	2	2	抗菌化学療法認定薬剤師	2	2	2	日病薬 病院薬学認定薬剤師	14	17	21	がん専門薬剤師	1	2	2	緩和薬物療法認定薬剤師	0	0	1	日本糖尿病療養指導士	4	5	5	周術期管理チーム認定薬剤師	1	1	2		
資格名／年度	2018	2019	2020																																			
感染制御認定薬剤師	2	2	2																																			
抗菌化学療法認定薬剤師	2	2	2																																			
日病薬 病院薬学認定薬剤師	14	17	21																																			
がん専門薬剤師	1	2	2																																			
緩和薬物療法認定薬剤師	0	0	1																																			
日本糖尿病療養指導士	4	5	5																																			
周術期管理チーム認定薬剤師	1	1	2																																			

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																															
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																			
		<table border="1"> <tr><td>外来がん治療認定薬剤師</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>腎臓病療養指導士</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>小児薬物療法認定薬剤師</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>救急認定薬剤師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>N S T 専門療法士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>心不全療養指導士</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> </table>	外来がん治療認定薬剤師	0	1	1	腎臓病療養指導士	2	2	2	小児薬物療法認定薬剤師	3	2	2	救急認定薬剤師	1	1	1	N S T 専門療法士	1	1	1	心不全療養指導士	0	0	1											
外来がん治療認定薬剤師	0	1	1																																		
腎臓病療養指導士	2	2	2																																		
小児薬物療法認定薬剤師	3	2	2																																		
救急認定薬剤師	1	1	1																																		
N S T 専門療法士	1	1	1																																		
心不全療養指導士	0	0	1																																		
		<p>※2020年度新規資格取得者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日病薬 病院薬学認定薬剤師 4人 ・緩和薬物療法認定薬剤師 1人 ・周術期管理チーム認定薬剤師 1人 ・心不全療養指導士 1人 <p>【中央リハビリテーション部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ハンドセラピー学会 ・日本理学療法学会 ・日本集中治療医学会 ・日本呼吸ケアリハビリテーション学会 ・日本心臓リハビリテーション学会 <p>※資格取得者数（年度末） 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格名/年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>3学会合同呼吸療法認定士</td><td>21</td><td>23</td><td>25</td></tr> <tr><td>心臓リハビリテーション指導士</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>認定理学療法士</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>心不全療養指導士</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td>日本糖尿病療養指導士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>LSVT®資格認定</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> </tbody> </table> <p>※2020年度新規資格取得者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心不全療養指導士 1人 <p>【栄養部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国自治体病院学会 ・岐阜県病院協会医学会 	資格名/年度	2018	2019	2020	3学会合同呼吸療法認定士	21	23	25	心臓リハビリテーション指導士	3	3	3	認定理学療法士	2	3	4	心不全療養指導士	0	0	1	日本糖尿病療養指導士	1	1	1	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	1	1	1	LSVT®資格認定	1	1	1			
資格名/年度	2018	2019	2020																																		
3学会合同呼吸療法認定士	21	23	25																																		
心臓リハビリテーション指導士	3	3	3																																		
認定理学療法士	2	3	4																																		
心不全療養指導士	0	0	1																																		
日本糖尿病療養指導士	1	1	1																																		
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	1	1	1																																		
LSVT®資格認定	1	1	1																																		

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																																																																
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																																																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・日本心臓リハビリ学会学術集会 ・日本静脈経腸栄養学会 ・日本病態栄養学会年次学術集会 ・がん専門管理栄養士セミナー <p>※資格取得者数（年度末） 単位：人</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>資格名／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NST 専門療法士</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>糖尿病療養指導士</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>病態栄養専門管理栄養士</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>がん病態栄養専門管理栄養士</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>心臓リハビリテーション指導士</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>健康運動指導士</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2020年度新規資格取得者 なし</p> <p>【臨床工学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本臨床工学技士会 ・岐阜県臨床工学技士会セミナー ・岐阜県臨床工学技士会学術大会 ・医療機器安全基礎講習会（ME 技術講習会） ・透析液安全管理責任者セミナー ・日本人工臓器学会教育セミナー <p>※資格取得者数（年度末） 単位：人</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>資格名／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>体外循環技術認定士</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>透析技術認定士</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>呼吸療法認定士</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>医療機器情報コミュニケーター (MD I C)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>認定ホスピタルエンジニア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ICLS 認定インストラクター</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>AHA-BLS プロバイダーコース</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>AHA-ACLS プロバイダーコース</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2020年度新規資格取得者 なし</p>			資格名／年度	2018	2019	2020	NST 専門療法士	3	3	3	糖尿病療養指導士	4	5	5	病態栄養専門管理栄養士	3	4	4	がん病態栄養専門管理栄養士	2	2	2	心臓リハビリテーション指導士	0	1	1	健康運動指導士	1	1	1	資格名／年度	2018	2019	2020	体外循環技術認定士	5	5	5	透析技術認定士	4	4	4	呼吸療法認定士	3	4	4	医療機器情報コミュニケーター (MD I C)	1	1	1	認定ホスピタルエンジニア	1	1	1	ICLS 認定インストラクター	1	1	1	AHA-BLS プロバイダーコース	3	4	4	AHA-ACLS プロバイダーコース	3	4	4		
資格名／年度	2018	2019	2020																																																																			
NST 専門療法士	3	3	3																																																																			
糖尿病療養指導士	4	5	5																																																																			
病態栄養専門管理栄養士	3	4	4																																																																			
がん病態栄養専門管理栄養士	2	2	2																																																																			
心臓リハビリテーション指導士	0	1	1																																																																			
健康運動指導士	1	1	1																																																																			
資格名／年度	2018	2019	2020																																																																			
体外循環技術認定士	5	5	5																																																																			
透析技術認定士	4	4	4																																																																			
呼吸療法認定士	3	4	4																																																																			
医療機器情報コミュニケーター (MD I C)	1	1	1																																																																			
認定ホスピタルエンジニア	1	1	1																																																																			
ICLS 認定インストラクター	1	1	1																																																																			
AHA-BLS プロバイダーコース	3	4	4																																																																			
AHA-ACLS プロバイダーコース	3	4	4																																																																			

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																																
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																				
		<p>6 ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）等の活用</p> <p>・2017年度及び2018年度に整備した遠隔画像コンサルテーションシステムを積極的に活用し、準夜帯及び深夜帯の院内専門医不在時における画像コンサルテーションを、外部の放射線専門医に依頼することにより、安全かつ質の高い医療を提供した。2020年度は3,503件のCT・MRI検査画像のコンサルテーション依頼を行った。</p> <p>○救急の外部コンサルテーション依頼数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>1,577</td> <td>2,983</td> <td>3,091</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>141</td> <td>377</td> <td>412</td> </tr> </tbody> </table>			項目／年度	2018	2019	2020	CT	1,577	2,983	3,091	MRI	141	377	412																						
項目／年度	2018	2019	2020																																			
CT	1,577	2,983	3,091																																			
MRI	141	377	412																																			
02	<p>3 医療に関する相談体制の充実</p> <p>総合サポートセンターの受付付近に患者に分かりやすい相談窓口を設け、相談担当者が対応する。相談内容に応じて関係部署との連携を図り、診療内容、在宅支援、苦情、就労支援をはじめあらゆる相談に迅速に対応可能な体制を整える。</p> <p>また、毎週カンファレンスを開催し、問題事項についてスタッフ間で協議、共有する。</p>	<p>3 医療に関する相談体制の充実</p> <p>・毎週木曜日にカンファレンスを開催し、医療相談に係る問題事項についての協議を行った。</p> <p>○カンファレンスで協議した事項及び件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院の環境</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>患者等からの相談</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>患者相談対応力向上のための事例検討</td> <td>22</td> <td>48</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>患者等からの苦情</td> <td>83</td> <td>73</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>・医療相談は、外来及び入院後の相談があり、高齢化に伴い独居や生活保護などの福祉相談が増加した。また、入退院支援加算算定数増加の取り組みにより入院後7日以内の相談件数が増加した。</p> <p>○医療相談件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>4,870</td> <td>5,606</td> <td>7,264</td> </tr> </tbody> </table>			項目／年度	2018	2019	2020	病院の環境	6	3	3	患者等からの相談	14	13	5	患者相談対応力向上のための事例検討	22	48	28	患者等からの苦情	83	73	44	その他	10	10	17		2018	2019	2020		4,870	5,606	7,264	IV	<p>医療相談数の増加について評価できる。</p> <p>医療通訳ボランティアがCOVID-19により減少し、病院職員による対応が増加し、タブレットで補っている。</p>
項目／年度	2018	2019	2020																																			
病院の環境	6	3	3																																			
患者等からの相談	14	13	5																																			
患者相談対応力向上のための事例検討	22	48	28																																			
患者等からの苦情	83	73	44																																			
その他	10	10	17																																			
	2018	2019	2020																																			
	4,870	5,606	7,264																																			
03	<p>1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実</p> <p>患者動向、医療需要の変化及び医療の進歩に対応するた</p>	<p>1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実</p> <p>・患者動向や医療需要の変化に対応した組織改編等に積極的に取り組んだことにより、患者に対してよりきめ細やかなサービスを提供することができた。また、「診療部門」「中央診療部門」「薬剤部門」「看護部門」「医療支援部門」</p>			IV	<p>医療支援部門が充実している点は評価できる。</p>																																

項目 No.	R 2 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証（案）												
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 	自己 評価													
	め、診療科や専門外来の新設等、患者ニーズに対応したきめ細やかな診療体制の充実を図る。	<p>「重症心身障がい児施設部門」「事務部門」の7部門を主軸とする組織体制に改編し、実態に即した診療科・標榜科名に改め、組織図全体を分かりやすく整理した。</p> <p>○組織・診療科等の新設等</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【事務局等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病床管理部 <p>【診療部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胸部外科 ・婦人科 ・放射線科 <p>【医療支援部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合サポートセンター ・(総合サポートセンター) 地域医療連携部 ・(総合サポートセンター地域医療連携部) 前方連携室 ・(総合サポートセンター地域医療連携部) 後方連携室 ・(総合サポートセンター入退院サポート部) 入院支援室 ・(総合サポートセンター入退院サポート部) 退院支援室 ・(病理部) 病理細胞診検査担当 ・(病理部) 遺伝子病理検査担当 </div>														
04	<p>1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上</p> <p>当センターと地域医療機関がそれぞれの特性を生かしながら機能分担し、患者が病状に即した医療を受診できるよう地域全体で協力し、ケアしていくため、「地域医療支援病院」として、紹介率の維持・向上（75%以上）及び逆紹介率の維持・向上（95%以上）を目指すことで、地域の医療機関との連携及び協力体制のさらなる充実を図る。</p> <p>また、地域の各医療機関を定期的に訪問することにより、開放型病床登録医療機関及び登録医師数のさらなる拡大や紹介患者数の増加を目指し、「病病連携」や「病診連携」をさらに推進する。</p> <p>2 地域連携パスの整備普及</p> <p>現在運用している地域連携パスの有用性を検証し、運用</p>	<p>1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介率・逆紹介率について、COVID-19の影響下、患者の移動が制限される中で、年度計画（紹介率75%以上、逆紹介率95%以上）の目標に対して逆紹介率は達成できたが、紹介率は達成できなかった。 <p>○紹介率・逆紹介率 単位：%</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>77.0</td> <td>77.3</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>98.1</td> <td>96.2</td> <td>97.6</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・開放型病床登録医療機関及び登録医師数の拡大を目指し、新規に開設した医療機関に対する働きかけを行った結果、新たに10医療機関が追加となり、合計で416医療機関、531名の登録数となった。 	項目/年度	2018	2019	2020	紹介率	77.0	77.3	70.0	逆紹介率	98.1	96.2	97.6	Ⅲ	COVID-19により紹介率減少。各種教室が開催できていない。
項目/年度	2018	2019	2020													
紹介率	77.0	77.3	70.0													
逆紹介率	98.1	96.2	97.6													

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証（案）																																																																												
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 	自己 評価																																																																													
	<p>実績の向上を目指す。また、既に運用中の急性心筋梗塞、脳卒中、大腿骨頸部骨折、ウイルス性肝炎等の連携パスについては、更なる改善・充実を図るとともに、平成23年から運用が開始された5大がん及び前立腺がんを加えた六つのがん（胃がん、大腸がん、肝臓がん、肺がん、乳がん、前立腺がん）の既存の地域連携パスについても、岐阜大学医学部附属病院等関係医療機関と共同で取り組む。また、岐阜地域医師会連携パス機構による新たな連携パス（CR-G Net）の院内での普及及び活用に努め、運用率を高める。</p> <p>3 疾病予防の推進 糖尿病患者に対する重症化及び合併症発症の予防や、心不全患者に対する重症化予防に取り組む。また、健康祭や糖尿病教室等の各種行事を通じて疾患予防の周知に努める。</p>	<p>2 地域連携パスの整備普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携パスに関する院内への周知、定期的なモニタリングを行うとともに、院内外の相談窓口として連絡調整を行った。 ・地域医師会や岐阜大学医学部附属病院による地域連携パスに係る学習会は、今年度もCOVID-19の影響で開催されなかった。 ・地域連携パスの院内での普及を進めており、現在17種類の運用を行っている。その結果、運用実績数は前年度を上回った。 <p>○地域連携パスの運用実績 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>連携パス名</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>急性心筋梗塞</td><td>63</td><td>59</td><td>62</td></tr> <tr><td>大腿骨頸部骨折</td><td>158</td><td>125</td><td>163</td></tr> <tr><td>脳卒中</td><td>348</td><td>284</td><td>313</td></tr> <tr><td>胃がん</td><td>45</td><td>41</td><td>30</td></tr> <tr><td>肝がん</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td></tr> <tr><td>大腸がん</td><td>58</td><td>53</td><td>72</td></tr> <tr><td>乳がん</td><td>23</td><td>127</td><td>82</td></tr> <tr><td>肝炎</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>肺がん</td><td>23</td><td>22</td><td>16</td></tr> <tr><td>糖尿病</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td>COPD</td><td>17</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>CKD</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>PSA</td><td>32</td><td>17</td><td>21</td></tr> <tr><td>前立腺がん</td><td>54</td><td>41</td><td>33</td></tr> <tr><td>尿路上皮がん</td><td>7</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>サポートパス</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>心不全</td><td>10</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>合計</td><td>844</td><td>778</td><td>797</td></tr> </tbody> </table> <p>3 疾病予防の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病患者や心不全患者に対する栄養指導を積極的に実施した結果、各疾患に対する栄養指導実施率が前年度を上回った。 	連携パス名	2018	2019	2020	急性心筋梗塞	63	59	62	大腿骨頸部骨折	158	125	163	脳卒中	348	284	313	胃がん	45	41	30	肝がん	2	3	1	大腸がん	58	53	72	乳がん	23	127	82	肝炎	2	2	1	肺がん	23	22	16	糖尿病	0	0	1	COPD	17	1	1	CKD	0	0	0	PSA	32	17	21	前立腺がん	54	41	33	尿路上皮がん	7	2	1	サポートパス	2	0	0	心不全	10	1	0	合計	844	778	797		
連携パス名	2018	2019	2020																																																																													
急性心筋梗塞	63	59	62																																																																													
大腿骨頸部骨折	158	125	163																																																																													
脳卒中	348	284	313																																																																													
胃がん	45	41	30																																																																													
肝がん	2	3	1																																																																													
大腸がん	58	53	72																																																																													
乳がん	23	127	82																																																																													
肝炎	2	2	1																																																																													
肺がん	23	22	16																																																																													
糖尿病	0	0	1																																																																													
COPD	17	1	1																																																																													
CKD	0	0	0																																																																													
PSA	32	17	21																																																																													
前立腺がん	54	41	33																																																																													
尿路上皮がん	7	2	1																																																																													
サポートパス	2	0	0																																																																													
心不全	10	1	0																																																																													
合計	844	778	797																																																																													

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																																																												
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																																																
		○各疾患に対する栄養指導実施率 単位：％ <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>糖尿病</td> <td>90.4</td> <td>93.2</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>心不全</td> <td>62.6</td> <td>63.3</td> <td>67.1</td> </tr> </tbody> </table>			項目／年度	2018	2019	2020	糖尿病	90.4	93.2	95.0	心不全	62.6	63.3	67.1																																																		
項目／年度	2018	2019	2020																																																															
糖尿病	90.4	93.2	95.0																																																															
心不全	62.6	63.3	67.1																																																															
05	<p>2 心血管疾患医療 心筋梗塞をはじめとする虚血性心疾患、慢性心不全、弁膜症、大動脈疾患、末梢血管疾患、不整脈等心血管系の疾患患者に対し、内科系の循環器内科と外科系の心臓血管外科が連携したチーム医療を推進するとともに、高齢化社会に対応した低侵襲治療を充実させることで、不整脈治療、カテーテル治療、外科的治療、ハイブリッド治療、心臓リハビリテーション等患者にとって最新で最適な治療を提供する。</p> <p>3 周産期医療 総合周産期センター（産婦人科等）と新生児医療センター（新生児内科）を基幹として、出生前診断・胎児治療を含め各科の枠を超えた母と子どもの総合的な高度医療を提供する。 各センターでは、重症妊産婦や超早産児をはじめとして他施設では対応困難な症例に対して、専用のドクターカー（すこやか号）等による母体搬送や新生児搬送を24時間体制で受け入れ、後遺症なき発育を目指す。 県下全域に影響が危惧される事案が発生した場合には、県及び岐阜県周産期医療協議会等へ報告するとともに連携し協力体制を整える。 重症な新生児入院患者増加に伴う機能強化のため、新生児特定集中治療室を12床から15床に増床するなど受入病棟の整備を行う。</p>	<p>2 心血管疾患医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科系の循環器内科と外科系の心臓血管外科が連携してチーム医療を行う県内初の施設として、心臓血管系の疾患患者に対応するとともに、不整脈科等設置した専門の診療科において、それぞれの患者に最適な治療を提供することができた。 <p>○手術・検査数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>心臓カテーテル</td> <td>1,350</td> <td>1,220</td> <td>1,023</td> </tr> <tr> <td>PCI（経皮的冠動脈形成術）</td> <td>530</td> <td>458</td> <td>398</td> </tr> <tr> <td>冠動脈バイパス術</td> <td>69</td> <td>59</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>弁置換術</td> <td>40</td> <td>35</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>弁形成術</td> <td>11</td> <td>20</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>大動脈瘤切除術</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table> <p>○循環器系 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ablation（アブレーション）</td> <td>246</td> <td>264</td> <td>255</td> </tr> <tr> <td>PMI（ペースメーカー）</td> <td>126</td> <td>128</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>CRT（心臓再同期療法）</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>ICD（植込み型除細動器）</td> <td>20</td> <td>17</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>CRT-D（両室ペーシング機能付植込み型除細動器）</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>○心臓血管系 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			項目／年度	2018	2019	2020	心臓カテーテル	1,350	1,220	1,023	PCI（経皮的冠動脈形成術）	530	458	398	冠動脈バイパス術	69	59	26	弁置換術	40	35	25	弁形成術	11	20	6	大動脈瘤切除術	32	28	34	項目／年度	2018	2019	2020	Ablation（アブレーション）	246	264	255	PMI（ペースメーカー）	126	128	128	CRT（心臓再同期療法）	3	5	6	ICD（植込み型除細動器）	20	17	23	CRT-D（両室ペーシング機能付植込み型除細動器）	7	9	8	項目／年度	2018	2019	2020					IV	心血管疾患、周産期、子ども医療はCOVID-19により患者数は減少している。
項目／年度	2018	2019	2020																																																															
心臓カテーテル	1,350	1,220	1,023																																																															
PCI（経皮的冠動脈形成術）	530	458	398																																																															
冠動脈バイパス術	69	59	26																																																															
弁置換術	40	35	25																																																															
弁形成術	11	20	6																																																															
大動脈瘤切除術	32	28	34																																																															
項目／年度	2018	2019	2020																																																															
Ablation（アブレーション）	246	264	255																																																															
PMI（ペースメーカー）	126	128	128																																																															
CRT（心臓再同期療法）	3	5	6																																																															
ICD（植込み型除細動器）	20	17	23																																																															
CRT-D（両室ペーシング機能付植込み型除細動器）	7	9	8																																																															
項目／年度	2018	2019	2020																																																															

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																																											
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																															
5 こども医療 小児医療の拠点病院として、一般の医療機関では対応が困難な重篤な小児患者を診療科を問わず24時間体制で受け入れ、高度で専門的な医療を提供する。 小児救命救急センターとして必要な整備基準（PICUへの入院症例確保）を満たす体制づくりに努める。	EVAR（腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術）	53	68	34																																													
	TEVAR（胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術）	28	24	7																																													
	TAVI（TAVR）（経カテーテル大動脈弁置換術）	39	59	50																																													
	MitraClip（経皮的僧帽弁接合不全修復術）	/	45	40																																													
	<p>3 周産期医療 <総合周産期センターの運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児センター機能とハイリスクの妊産婦等の医療機能などの統合を継続し、産婦人科と小児科の枠を超えた高度医療を提供した。特に、合併症妊娠や異常妊娠、多胎妊娠、産褥異常、胎児異常等の患者の診療を行った。 ・当センターを受診されている妊婦だけではなく、緊急母体搬送で送られてくるハイリスク妊婦を24時間体制で受け入れた。 ・重症な新生児入院患者増加に伴う機能強化のため、新生児特定集中治療室を12床から15床に増床するなど受入病棟の整備を行った。 <p>○母体搬送の受入件数 単位：件</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母体搬送</td> <td>108(8)</td> <td>103(6)</td> <td>75(2)</td> </tr> <tr> <td>救急搬送</td> <td>11</td> <td>13</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※（ ）はヘリコプター搬送《内数》</p> <p>○産科合併症 単位：件</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>早産</td> <td>119</td> <td>135</td> <td>117</td> </tr> <tr> <td>HDP（妊娠高血圧症候群）</td> <td>33</td> <td>61</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>常位胎盤・早期剥離</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>胎盤位置異常</td> <td>34</td> <td>39</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>羊水の異常</td> <td>6</td> <td>70</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>胎児異常</td> <td>54</td> <td>98</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>FGR（胎児発育不全）</td> <td>18</td> <td>48</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table>						項目／年度	2018	2019	2020	母体搬送	108(8)	103(6)	75(2)	救急搬送	11	13	6	項目／年度	2018	2019	2020	早産	119	135	117	HDP（妊娠高血圧症候群）	33	61	36	常位胎盤・早期剥離	8	11	5	胎盤位置異常	34	39	53	羊水の異常	6	70	80	胎児異常	54	98	77	FGR（胎児発育不全）	18	48
項目／年度	2018	2019	2020																																														
母体搬送	108(8)	103(6)	75(2)																																														
救急搬送	11	13	6																																														
項目／年度	2018	2019	2020																																														
早産	119	135	117																																														
HDP（妊娠高血圧症候群）	33	61	36																																														
常位胎盤・早期剥離	8	11	5																																														
胎盤位置異常	34	39	53																																														
羊水の異常	6	70	80																																														
胎児異常	54	98	77																																														
FGR（胎児発育不全）	18	48	43																																														

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		自己 評価	評価委員会の検証（案）																																																																																
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																																																																			
		<p>○合併症妊娠 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>婦人科系疾患</td><td>38</td><td>50</td><td>117</td></tr> <tr><td>心・血管疾患</td><td>10</td><td>11</td><td>9</td></tr> <tr><td>血液疾患</td><td>6</td><td>3</td><td>1</td></tr> <tr><td>腎疾患</td><td>4</td><td>6</td><td>9</td></tr> <tr><td>糖尿病・妊娠性糖尿病</td><td>40</td><td>57</td><td>39</td></tr> <tr><td>甲状腺疾患</td><td>12</td><td>26</td><td>35</td></tr> <tr><td>自己免疫・膠原病</td><td>3</td><td>6</td><td>9</td></tr> <tr><td>呼吸器疾患</td><td>1</td><td>6</td><td>8</td></tr> <tr><td>消化器疾患</td><td>8</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>精神・神経系</td><td>4</td><td>10</td><td>11</td></tr> <tr><td>運動機能系</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> <p>○ハイリスク妊婦・分娩等（対象者） 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>総合周産期加算</td><td>276</td><td>347</td><td>307</td></tr> <tr><td>ハイリスク妊娠</td><td>100</td><td>215</td><td>209</td></tr> <tr><td>ハイリスク分娩</td><td>33</td><td>87</td><td>91</td></tr> <tr><td>救急加算</td><td>110</td><td>109</td><td>156</td></tr> </tbody> </table> <p>○保健指導実績 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>保健指導</td><td>1,033</td><td>1,351</td><td>1,224</td></tr> <tr><td>母乳相談</td><td>123</td><td>158</td><td>114</td></tr> </tbody> </table> <p><新生児医療センターの運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内分娩数の減少に伴い院内出生入院数は大幅に増加した昨年よりは減少した。 ・超・極低出生体重児入院数は昨年と比べ横ばいで推移した。 ・NICU3床増床により院外出生児の搬送受け入れを増やすことができるようになり、昨年より院外出生入院数が倍増した。 ・新生児手術症例数は例年よりも急増し入院患者の重症度が増した。 ・NICU3床増床に対応できるように人工呼吸器などの医療機器を更新し 		項目／年度	2018	2019	2020	婦人科系疾患	38	50	117	心・血管疾患	10	11	9	血液疾患	6	3	1	腎疾患	4	6	9	糖尿病・妊娠性糖尿病	40	57	39	甲状腺疾患	12	26	35	自己免疫・膠原病	3	6	9	呼吸器疾患	1	6	8	消化器疾患	8	2	3	精神・神経系	4	10	11	運動機能系	0	0	0	項目／年度	2018	2019	2020	総合周産期加算	276	347	307	ハイリスク妊娠	100	215	209	ハイリスク分娩	33	87	91	救急加算	110	109	156	項目／年度	2018	2019	2020	保健指導	1,033	1,351	1,224	母乳相談	123	158	114		
項目／年度	2018	2019	2020																																																																																		
婦人科系疾患	38	50	117																																																																																		
心・血管疾患	10	11	9																																																																																		
血液疾患	6	3	1																																																																																		
腎疾患	4	6	9																																																																																		
糖尿病・妊娠性糖尿病	40	57	39																																																																																		
甲状腺疾患	12	26	35																																																																																		
自己免疫・膠原病	3	6	9																																																																																		
呼吸器疾患	1	6	8																																																																																		
消化器疾患	8	2	3																																																																																		
精神・神経系	4	10	11																																																																																		
運動機能系	0	0	0																																																																																		
項目／年度	2018	2019	2020																																																																																		
総合周産期加算	276	347	307																																																																																		
ハイリスク妊娠	100	215	209																																																																																		
ハイリスク分娩	33	87	91																																																																																		
救急加算	110	109	156																																																																																		
項目／年度	2018	2019	2020																																																																																		
保健指導	1,033	1,351	1,224																																																																																		
母乳相談	123	158	114																																																																																		

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		自己 評価	評価委員会の検証（案）																																																								
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																																											
		<p>た。</p> <p>○出生、母体搬送件数 単位：件</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>院内出生</td> <td>178</td> <td>224</td> <td>207</td> </tr> <tr> <td>院外出生</td> <td>66</td> <td>46</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>母体搬送経由</td> <td>57</td> <td>60</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>超低出生体重児</td> <td>23</td> <td>31</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>極低出生体重児</td> <td>53</td> <td>60</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table> <p>○新生児手術状況 単位：件</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児心臓外科</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>小児脳神経外科</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>小児外科</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>耳鼻科(気管切開)</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>5 こども医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児医療の拠点病院として、一般の医療機関では対応が困難な小児の疾患に対し、高度で専門的な医療を提供した。 ・6床のP I C U（小児集中治療室）により、重篤な小児患者への対応を行った。 ・救急外来では、COV I D－1 9の影響により患者数は大幅に減少しているが、24時間体制で小児患者を受け入れた。 ・岐阜県の小児医療の中心的な役割を担う施設として、日本小児総合医療施設協議会（J A C H R I）にて総会への参加、各種照会による情報共有を行った。 <p>○PICUにおける病床稼働状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数（人）</td> <td>203</td> <td>186</td> <td>178</td> </tr> <tr> <td>稼働率（%）</td> <td>68.1</td> <td>49.8</td> <td>51.5</td> </tr> </tbody> </table>		項目／年度	2018	2019	2020	院内出生	178	224	207	院外出生	66	46	84	母体搬送経由	57	60	36	超低出生体重児	23	31	31	極低出生体重児	53	60	57	項目／年度	2018	2019	2020	小児心臓外科	10	10	15	小児脳神経外科	4	1	5	小児外科	11	16	25	耳鼻科(気管切開)	2	2	3	項目／年度	2018	2019	2020	入院患者数（人）	203	186	178	稼働率（%）	68.1	49.8	51.5		
項目／年度	2018	2019	2020																																																										
院内出生	178	224	207																																																										
院外出生	66	46	84																																																										
母体搬送経由	57	60	36																																																										
超低出生体重児	23	31	31																																																										
極低出生体重児	53	60	57																																																										
項目／年度	2018	2019	2020																																																										
小児心臓外科	10	10	15																																																										
小児脳神経外科	4	1	5																																																										
小児外科	11	16	25																																																										
耳鼻科(気管切開)	2	2	3																																																										
項目／年度	2018	2019	2020																																																										
入院患者数（人）	203	186	178																																																										
稼働率（%）	68.1	49.8	51.5																																																										

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																				
		○15 歳未満救急外来受入状況 単位：人 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入患者数</td> <td>8,861</td> <td>8,694</td> <td>4,581</td> </tr> <tr> <td>うち、入院数</td> <td>1,181</td> <td>1,091</td> <td>728</td> </tr> </tbody> </table>			項目／年度	2018	2019	2020	受入患者数	8,861	8,694	4,581	うち、入院数	1,181	1,091	728						
項目／年度	2018	2019	2020																			
受入患者数	8,861	8,694	4,581																			
うち、入院数	1,181	1,091	728																			
07	2 電子カルテシステム等に蓄積された各種医療データの有効活用 電子カルテシステム等に蓄積された各種医療データを分析し、医療情報として院内に提供することで、医療の質向上を図るとともに、効果的・効率的な治療の実施を支援する。 また、診療録 記載内容の監査、病理検査結果の患者への説明状況や画像診断結果の確認状況等を点検することにより、院内の医療従事者の総合的なレベルアップを図り、医療の安全と質の向上に寄与する。 診療情報の提供においては、ぎふ清流ネットを活用して、検査結果や放射線検査画像等を迅速に提供し、病診連携などの医療体制の強化を図る。	2 電子カルテシステム等に蓄積された各種医療データの有効活用 ・医師が記載した電子カルテの診療記録について、記述内容等を診療情報管理委員会で監査し、そのレベル向上を図るとともに、病理検査結果、内視鏡検査結果の患者への説明状況や画像診断結果の確認状況等を点検することにより、医療の安全と質の向上に努めた。また、医療画像の提供（7, 324件）やぎふ清流ネットの活用により、病診連携の実現に努めた。 ・診療情報として蓄積されたDPCデータについては、多職種で構成する分析チームにより、分析ソフトによる解析とコンサルタントを活用した13診療科の分析を実施した。また、分析により指摘した事項について、半年後の定量的な評価を継続した。 ○分析報告会の実施状況とコンサルティング委託費用 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分析報告会数</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>定量評価</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>委託費用（千円）</td> <td>3,003</td> <td>2,177</td> <td>2,777</td> </tr> </tbody> </table>			項目	2018	2019	2020	分析報告会数	9	9	10	定量評価	○	○	○	委託費用（千円）	3,003	2,177	2,777	IV	電子カルテ内の各種医療データの分析活用の点について評価できる。
項目	2018	2019	2020																			
分析報告会数	9	9	10																			
定量評価	○	○	○																			
委託費用（千円）	3,003	2,177	2,777																			
13	2 基幹災害拠点病院としての機能強化及び指導的役割の推進 地域の災害拠点病院や消防機関と連携し、災害医療の教育・研修・訓練を実施する。また、既存の食料等の優先納入契約を継続するとともに必要に応じて見直しを行う。	2 基幹災害拠点病院としての機能強化及び指導的役割の推進 ・例年、他病院と協力し、災害対策訓練時に被災情報等の情報共有訓練を併せて実施しているが、COVID-19の影響による災害対策訓練の自粛に伴い実施を見送った。次年度については、災害対策訓練を自粛する状況であっても、個別に代替訓練を実施する予定である。 ・事件現場における傷病者の発生に対し、応急的な治療を行うことで救命率を向上させるため、岐阜県警察と事件現場医療派遣チーム（IMAT）の運用に関する協定を締結した。			IV	県警とIMAT協定を締結した点は評価できる。																
15	2 診療情報のバックアップシステムの適正管理 大規模災害やシステム障害に備え、院内2か所の電算室において二重化している診療情報データや遠隔地へバックアップを行っている診療情報データの適正な維持管理に努める。	2 診療情報のバックアップシステムの適正管理 ・構築したバックアップシステムを適正に管理し、大規模災害時のみならず大規模システム障害時にも診療の継続が可能な環境を維持した。各病棟、一般外来及び救急外来へ配備した診療情報を蓄積したローカルSS-MIXストレージ（オフラインPC）については、定期的にデータのコピー状況を確認			IV	遠隔地へのバックアップ、ローカルSS-MIXストレージ（オフラインPC）について評価できる。																

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証（案）
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 	自己 評価	
	また、各部署へ配備した診療情報参照用パソコン（ローカルSS-MIXストレージ）の適正な維持管理に努める。	認した。		
16	<p>1 新型インフルエンザ等発生時における受入れ体制の整備</p> <p>指定地方公共機関として、新型インフルエンザ等対策特別措置法及び業務計画に定めるところにより、岐阜県、関係市町及び医療機関と相互に連携・協力し、新型インフルエンザ等対策の実施に努める。</p> <p>また、当センターの受入れ体制を確保するため、必要な物資及び資材の備蓄・整備・点検並びに施設及び設備の整備・点検を行う。</p>	<p>1 新型インフルエンザ等発生時における受入れ体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年2月に立ち上げたCOVID-19対策本部を継続し、病院幹部と各部門責任者、感染対策部メンバーなどにて週2回（6月以降は週1回）開催した。 ・診療・検査医療機関として、発熱外来を設置し発熱患者のトリアージを継続した。 ・2021年1月から全身麻酔手術・出産予定患者・入院内視鏡治療患者などに対して入院前PCR検査を開始した。 ・新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、5階西病棟をCOVID-19患者専用病棟として陰圧室の更なる確保などの整備を行った。 ・マスク・ガウン・消毒薬などの必要物資の調達・備蓄に努めた。 ・肺炎・心不全・意識障害などCOVID-19に感染しているか鑑別に困る事例は、個室に患者を収容し、飛沫・接触予防策ができる防護用具を装着、エアロゾルが発生する医療行為はN95を装着するように指導、徹底した。 ・新たな検査機器を増設し、COVID-19とインフルエンザを同時に検査できる体制を整備した。 ・COVID-19院内感染を未然に防止するため、職員からの発熱等の報告に対して迅速に対応する体制を整えた。 ・職員に感染者が発生した場合、COVID-19病棟以外の予測していなかった患者が感染した場合は、直ちに接触者の洗い出しを行い、検査を行った。入院患者から発生した場合は、聞き取りを行い、就業制限を出したことで、感染拡大を防止できた。 ・院内職員に対するCOVID-19ワクチンの接種を実施し、安全な医療を提供できる体制を整えた。 	IV	<p>COVID-19の患者受入について評価できる。</p> <p>重症者の受入れなどの役割について引き続きお願いしたい。</p>
18	<p>1 医療型障害児入所施設の運営の継続</p> <p>当センターが有する専門医療機能を活用し、濃厚な医療的ケアを要する重症心身障がい児に対する専門的な医療的ケアを継続する。</p>	<p>1 レスパイトケアのための短期入所施設の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年7月から定員2人(空床利用型)で短期入所の受入れを開始していたが、利用者からの要望や利用率の高さを勘案し、2017年1月に定員を2人から3人に増員した。県内の在宅で生活する重症心身障がい児・者92人(5人増)と契約し、延べ465日のレスパイトケアを実施した。前年 	III	<p>COVID-19の影響により入所者数減少。</p>

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証（案）																												
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 	自己 評価																													
		<p>度までは順調に利用者数を増やしてきたが、COVID-19の感染拡大による2回の緊急事態宣言の発出に伴い施設内感染防止のため、やむなく約4ヶ月の受入を中止したことから大幅な減少となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度実施したアンケート結果において、利用の要望が高く予約できない契約者がいることから、短期入所の受付方法等の改善を行った結果、利用者からは受付時の負担軽減と利用しやすくなったとの評価を得た。 <p>○短期入所施設の利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員</td> <td>3人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>契約者数</td> <td>81人</td> <td>87人</td> <td>92人</td> </tr> <tr> <td>利用延人員</td> <td>219人</td> <td>215人</td> <td>97人</td> </tr> <tr> <td>利用延日数</td> <td>897日</td> <td>908日</td> <td>465日</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>81.9%</td> <td>82.7%</td> <td>68.5%</td> </tr> <tr> <td>予約率</td> <td>90.0%</td> <td>91.0%</td> <td>85.5%</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2018	2019	2020	定員	3人	3人	3人	契約者数	81人	87人	92人	利用延人員	219人	215人	97人	利用延日数	897日	908日	465日	利用率	81.9%	82.7%	68.5%	予約率	90.0%	91.0%	85.5%		
項目/年度	2018	2019	2020																													
定員	3人	3人	3人																													
契約者数	81人	87人	92人																													
利用延人員	219人	215人	97人																													
利用延日数	897日	908日	465日																													
利用率	81.9%	82.7%	68.5%																													
予約率	90.0%	91.0%	85.5%																													
19	<p>2 アウトソーシングの導入等による合理化の推進 定型的な業務のうち委託することが効果的・効率的である業務や専門的な知識・技術を要する業務については、アウトソーシングを推進し、導入後もその委託内容や方法などの見直しを適切に行う。</p> <p>3 ICT（情報通信技術）の活用等による経営効率の高い業務執行体制の充実 人事給与システム、勤怠管理システム、旅費システム、医事会計システム、財務会計システム等の機能の見直しを随時行うとともに、働き方改革につながる新たなシステムの導入について検討を行う。また、定年を迎えた職員のうち、病院経営に寄与すると認められる職員を再雇用することで、質の高い業務執行を推進する。</p>	<p>2 アウトソーシング導入による合理化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設管理部門（設備管理、清掃、防災他）、情報システム関連部門や医業部門（給食、医事業務、洗濯業務他）の専門的技能を必要とする部門について、アウトソーシングを継続し、業務の合理化を図った。また、新たに入院セット提供業務及びCOVID-19感染防止の方策として実施していた病院正面玄関における検温業務を追加し、業務の効率化を図った。 ・導入したアウトソーシングについては、必要に応じて委託内容や方法の見直しを実施した。 <p>3 ICT（情報通信技術）の活用等による経営効率の高い業務執行体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事給与システムの活用や旅費計算ソフトにより、業務の効率化を図った。 ・2018年度に業者選定を行った県立3病院新人事給与システムについて、2021年度稼働開始を目指して開発を開始した。また、職員の勤怠管理を適正に行うため、勤怠管理システム（タイムレコーダー）を継続した。 ・COVID-19に対応するため、医療安全及び感染対策研修会や各種研修会をオンデマンド形式で配信することができるシステムや小規模な会議等に対応できるオンライン会議システムを導入した。 ・定年を迎えた事務職員のうち、病院経営に寄与すると認められる職員を再雇用及び定年延長し、質の高い業務執行に努めた。 	III	せつかくのシステム導入のため、導入目的が達成されたかどうかの検証も行っていただきたい。																												

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																								
		○事務職員再雇用職員数 単位：人 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>再雇用</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>			項目／年度	2018	2019	2020	再雇用	5	7	8																														
項目／年度	2018	2019	2020																																							
再雇用	5	7	8																																							
20	1 人員配置の検証及び弾力的運用 各職種の職員1人あたりの医業収入推移等を検証した上で、医療需要の動向や経営状況の変化に迅速かつ的確に対応した診療科の変更、各職種の人員配置を弾力的に行う。	1 人員配置の検証及び弾力的運用 ・2015年度をベースとした各職種の職員1人あたりの医業収入推移を検証し、医療需要と経営状況のバランスを検討した上で、各職種の人員配置を弾力的に行ったが、COVID-19の影響で全体の収入が減少しており、数値が悪化した職種が多かった。 ・COVID-19専用病床に対して、岐阜圏域のフェーズに応じて他部署の医師や看護師を柔軟に配置した。 ○各職種の職員1人あたりの医業収入 単位：％ <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>105.6</td> <td>105.0</td> <td>96.7</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>103.6</td> <td>102.4</td> <td>90.9</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>117.4</td> <td>109.8</td> <td>114.5</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>86.0</td> <td>83.3</td> <td>79.9</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td>95.1</td> <td>92.0</td> <td>79.2</td> </tr> <tr> <td>リハビリ技師</td> <td>92.0</td> <td>84.4</td> <td>75.8</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>123.0</td> <td>117.1</td> <td>106.3</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>57.6</td> <td>46.4</td> <td>38.4</td> </tr> </tbody> </table> ※数値は2015年度をベースとした伸び率			項目／年度	2018	2019	2020	医師	105.6	105.0	96.7	看護師	103.6	102.4	90.9	薬剤師	117.4	109.8	114.5	臨床検査技師	86.0	83.3	79.9	放射線技師	95.1	92.0	79.2	リハビリ技師	92.0	84.4	75.8	管理栄養士	123.0	117.1	106.3	臨床工学技士	57.6	46.4	38.4	IV	COVID-19専用病床の活用において、適切な人員配置は、至極であった。
項目／年度	2018	2019	2020																																							
医師	105.6	105.0	96.7																																							
看護師	103.6	102.4	90.9																																							
薬剤師	117.4	109.8	114.5																																							
臨床検査技師	86.0	83.3	79.9																																							
放射線技師	95.1	92.0	79.2																																							
リハビリ技師	92.0	84.4	75.8																																							
管理栄養士	123.0	117.1	106.3																																							
臨床工学技士	57.6	46.4	38.4																																							
21	1 人事評価システムによる公平かつ客観的な人事制度の運用 人事評価システムにより職員の業績、職務能力、職責等を公正に評価し、職員の意欲が引き出される公平かつ客観的な人事制度の運用に努める。	1 人事評価システムによる公平かつ客観的な人事制度の運用 ・人事評価システムにより職員の業績、職務能力、職責等を公正に評価し、職員の意欲が引き出される公平かつ客観的な人事制度の運用に努めた。 ・目標評価については、新たに目標の困難度と達成度を判定することにより、公平かつ客観的な評価を図った。また、6月支給の勤勉手当において、目標評価における成績優秀者（S・A評価）計26名に対し手当への反映を実施した。			IV	公平かつ客観的な人事評価は評価できる。																																				
22	1 事務部門職員の確保及び育成 経営管理機能を強化するため、病院特有の事務に精通した職員を計画的に確保する。 また、専門性の向上に計画的に取り組むため、診療報酬	1 事務部門職員の確保及び育成 ・病院運営や医療事務、がん登録等の専門的な知識に精通した事務職員を確保するため、プロパー職員を計画的に採用（5人）した。 ・専門性の向上のため、職務に関連する研修への参加や資格取得を支援し、事			IV	プロパー職員の採用、資格取得支援（診療診断士、医療経営士）について評価できる。																																				

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																												
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																
	等の医事業務や診療情報分析、病院経営に係る財務経営分析、危機管理等専門性の高い業務に関する研修への参加及び診療情報管理士や医療経営士等の資格取得を支援する。	務職員の育成に努めた。（診療情報管理士、医療経営士） ○事務職員の状況（年度末時点） 単位：人 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロパー職員</td> <td>62</td> <td>64</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>うち、診療情報管理士</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>うち、医療経営士</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>うち、院内がん登録実務中級認定者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>県派遣職員</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>68</td> <td>69</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table>			項目／年度	2018	2019	2020	プロパー職員	62	64	67	うち、診療情報管理士	7	10	10	うち、医療経営士	1	2	2	うち、院内がん登録実務中級認定者	0	0	2	県派遣職員	6	5	3	合計	68	69	70		
項目／年度	2018	2019	2020																															
プロパー職員	62	64	67																															
うち、診療情報管理士	7	10	10																															
うち、医療経営士	1	2	2																															
うち、院内がん登録実務中級認定者	0	0	2																															
県派遣職員	6	5	3																															
合計	68	69	70																															
23	1 業務執行におけるコンプライアンスの徹底 医療法をはじめとする国の法令や関係規程、法人が定める倫理方針や各種規程を遵守することで、保健所や厚生局からの立入検査及び指導に適切に対応する。 また、監事監査、内部監査、会計監査人監査等の実施により、チェック体制を確立し、コンプライアンスを確実なものとする。 岐阜県情報公開条例に基づく公文書の公開及び岐阜県個人情報保護条例その他法人規程に基づくカルテ等医療情報の開示を着実にを行い、医療の透明性を確保するとともに、医療情報提供の環境を整備する。	1 業務執行におけるコンプライアンスの徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員に対して個人情報保護に関する研修を行った。 ・全職員を対象にした個人情報保護に関する研修を複数回実施し、トータルで1,055人（昨年度：391人）が参加した。 ・医療倫理に関する研修をオンデマンド形式で配信し、1,380人（昨年度：94人）の職員の参加を得た。 ・監事監査、内部監査及び監査法人監査の実施により、コンプライアンスを徹底した。 ・患者や家族からの請求による個人情報の開示を適切に行った。 ○カルテ開示請求・開示件数 単位：件 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>請求件数</td> <td>149</td> <td>171</td> <td>185</td> </tr> <tr> <td>開示件数</td> <td>139</td> <td>153</td> <td>180</td> </tr> </tbody> </table>			項目／年度	2018	2019	2020	請求件数	149	171	185	開示件数	139	153	180	IV	個人情報、医療倫理に関する研修やカルテ開示について評価できる。																
項目／年度	2018	2019	2020																															
請求件数	149	171	185																															
開示件数	139	153	180																															
25	1 調達の効率化及び適正な契約事務の実施 業務内容の集約化・簡素化・迅速化・費用削減等の提案を評価するプロポーザル方式による業者選定をはじめ、複数年契約や関連性のある業務の包括委託化等多様な契約手法の導入を検討する。また、複数年契約した一部の施設管理業務委託において契約期間が終了するため、その評価を行うとともに次期契約における契約手法の検討を行う。	1 調達の効率化及び適正な契約事務の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析等を行うことで、薬品や診療材料の購入価格や委託業務の複数年契約等の経営改善すべき点の把握に努め、効率的な病院運営を図るための方策等を検討した。 ・複数メーカーの機種選定を勧め、ベンチマークを利用した交渉による医療機器の購入を行い、当初の予定金額より年間約6千万円のコスト削減ができた。 ・診療材料について、ベンチマークを活用して新規採用品目の価格を抑えるとともに、既存使用品目も継続して価格交渉を行い、節減効果を維持した。 			IV	ベンチマークを活用した価格交渉、プロポーザル方式による業者選定について評価できる。																												

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証（案）																																																
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 	自己 評価																																																	
		<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品について、経費圧縮等に関するアドバイザーの活用により、継続的な価格交渉を行い、経費削減を図った。 ・複数年契約が終了する一部の施設管理業務委託において、その評価を行うとともに、経営的にメリットのある契約手法を検討し、次期契約の締結を行った。 ・医事業務について、現在の複数年契約が終了したため、プロポーザル方式による業者選定を実施した。 																																																		
26	<p>1 効果的な病床管理及び医療機器の効率的な活用 病床管理部を中心とした効果的で効率的な病床管理を実施することで、在院日数の短縮及び病床利用率（87%以上）の向上に努める。 また、医療機器については、近隣医療機関との連携を密にし、共同利用等を推進することで、医療機器の稼働件数の向上に努める。あわせて、手術室の更なる効率化を図り、手術件数の増加による収益確保に努める。</p> <p>2 医療資源を最大限活用した施設基準等の適正管理 収益の向上を図るため、人的な医療資源を最大限活用した新たな施設基準の取得を積極的に検討する。また、既に届け出た施設基準やDPC病院群の要件指標を定期的に確認し、その安定的な維持に努める。</p> <p>3 未収金の発生防止対策等 診療費に係る未収金の発生防止対策として、緊急に入院となった患者への面談を実施することで保険確認や支払相談に早期に着手し、未収金発生の未然防止を徹底する。 また、支払に関する相談に応じる体制の確保に加え、現金又はクレジットカード以外の支払手法の拡大を検討する。 やむなく未収金となった場合には、支払計画の作成を促すとともにその履行を確認し、早期の督促、催告を実施する。あわせて回収が困難と見込まれる未収金については、</p>	<p>1 効果的な病床管理及び医療機器の効率的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空床の適正かつ効率的な運用を図るために、院長直轄の「病床管理部」を設置し、上席師長を専従として配置した。 ・病床管理部を中心として適切な病床管理による病床利用率の向上に努めたが、COVID-19による入院制限等により、病床利用率の目標値（87%）は達成できなかった。 <p>○収入関係数値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">外 来</td> <td>患者数(人)</td> <td>336,232</td> <td>343,120</td> <td>310,685</td> </tr> <tr> <td>平均患者数(人/日)</td> <td>1,378</td> <td>1,418</td> <td>1,279</td> </tr> <tr> <td>診療額(百万円)</td> <td>5,969</td> <td>6,264</td> <td>5,918</td> </tr> <tr> <td>診療単価(円/日)</td> <td>17,752</td> <td>18,257</td> <td>19,050</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">入 院</td> <td>患者数(人)</td> <td>191,035</td> <td>194,649</td> <td>173,389</td> </tr> <tr> <td>平均患者数(人/日)</td> <td>523</td> <td>532</td> <td>475</td> </tr> <tr> <td>診療額(百万円)</td> <td>16,053</td> <td>16,556</td> <td>15,324</td> </tr> <tr> <td>診療単価(円/日)</td> <td>84,032</td> <td>85,055</td> <td>88,379</td> </tr> <tr> <td>在院日数(日)</td> <td>11.4</td> <td>11.3</td> <td>11.6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">病床利用率%)</td> <td>86.7</td> <td>86.7</td> <td>76.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率 分子：延べ入院患者数（＝各24時時点の在院患者数＋退院患者数） 分母：運用病床数×日数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録医からのFAXによるMRI、CT、胃カメラ等の検査予約を実施した。 			2018	2019	2020	外 来	患者数(人)	336,232	343,120	310,685	平均患者数(人/日)	1,378	1,418	1,279	診療額(百万円)	5,969	6,264	5,918	診療単価(円/日)	17,752	18,257	19,050	入 院	患者数(人)	191,035	194,649	173,389	平均患者数(人/日)	523	532	475	診療額(百万円)	16,053	16,556	15,324	診療単価(円/日)	84,032	85,055	88,379	在院日数(日)	11.4	11.3	11.6	病床利用率%)		86.7	86.7	76.6	IV	未収金、施設基準の要件確認、病床管理部の設置、債券の保有について評価できる。
		2018	2019	2020																																																
外 来	患者数(人)	336,232	343,120	310,685																																																
	平均患者数(人/日)	1,378	1,418	1,279																																																
	診療額(百万円)	5,969	6,264	5,918																																																
	診療単価(円/日)	17,752	18,257	19,050																																																
入 院	患者数(人)	191,035	194,649	173,389																																																
	平均患者数(人/日)	523	532	475																																																
	診療額(百万円)	16,053	16,556	15,324																																																
	診療単価(円/日)	84,032	85,055	88,379																																																
	在院日数(日)	11.4	11.3	11.6																																																
病床利用率%)		86.7	86.7	76.6																																																

項目 No.	R 2 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																																																																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																																																								
	<p>平成22年度末に開始した債権回収業務委託（弁護士法人）を引き続き実施し、効果的、効率的な未収金回収に努める。</p> <p>5 効率的な資金運用 現金の保管方法について、安定した債券の取得等による効率的かつ有利な資金運用を継続する。</p>	<p>○FAXによる検査予約実績 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FAX 予約</td> <td>924</td> <td>959</td> <td>794</td> </tr> </tbody> </table> <p>○検査件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度／項目</th> <th>CT 外来</th> <th>CT 入院</th> <th>MRI 外来</th> <th>MRI 入院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>34,946</td> <td>7,938</td> <td>11,517</td> <td>1,943</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>36,792</td> <td>7,889</td> <td>12,005</td> <td>1,870</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>34,281</td> <td>6,247</td> <td>12,168</td> <td>1,991</td> </tr> </tbody> </table> <p>・手術の内容に応じた手術枠の弾力的運用や手術機材のキット化により手術待ち時間や手術準備時間の短縮を図る取組を継続した。</p> <p>○時間内手術室稼働率・総手術件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率（単位：％）</td> <td>74.1</td> <td>72.9</td> <td>69.3</td> </tr> <tr> <td>件数（単位：件）</td> <td>7,534</td> <td>7,777</td> <td>6,906</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 医療資源を最大限活用した施設基準等の適正管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合入院体制加算（退院時診療情報添付加算算定割合：40％以上）及び地域医療支援病院入院診療加算（紹介率：50％以上、逆紹介率：70％以上）の算定基準（要件）を大幅に超えることができた。 ・DPC特定病院群の各種要件（診療密度、外保連指数、内保連疾患割合）について、毎月状況を確認し、各数値の維持に努めた。 <p>○各種指標の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>77.0%</td> <td>77.3%</td> <td>70.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>98.1%</td> <td>96.2%</td> <td>97.6%</td> </tr> <tr> <td>退院時加算</td> <td>46.9%</td> <td>45.0%</td> <td>50.8%</td> </tr> <tr> <td>診療密度</td> <td>1,234.2</td> <td>1,282.5</td> <td>1,329.9</td> </tr> <tr> <td>外保連指数</td> <td>16.32</td> <td>15.81</td> <td>15.52</td> </tr> <tr> <td>内保連疾患割合</td> <td>2.6%</td> <td>2.7%</td> <td>2.4%</td> </tr> </tbody> </table>			項目／年度	2018	2019	2020	FAX 予約	924	959	794	年度／項目	CT 外来	CT 入院	MRI 外来	MRI 入院	2018	34,946	7,938	11,517	1,943	2019	36,792	7,889	12,005	1,870	2020	34,281	6,247	12,168	1,991	項目／年度	2018	2019	2020	稼働率（単位：％）	74.1	72.9	69.3	件数（単位：件）	7,534	7,777	6,906	項目／年度	2018	2019	2020	紹介率	77.0%	77.3%	70.0%	逆紹介率	98.1%	96.2%	97.6%	退院時加算	46.9%	45.0%	50.8%	診療密度	1,234.2	1,282.5	1,329.9	外保連指数	16.32	15.81	15.52	内保連疾患割合	2.6%	2.7%	2.4%		
項目／年度	2018	2019	2020																																																																							
FAX 予約	924	959	794																																																																							
年度／項目	CT 外来	CT 入院	MRI 外来	MRI 入院																																																																						
2018	34,946	7,938	11,517	1,943																																																																						
2019	36,792	7,889	12,005	1,870																																																																						
2020	34,281	6,247	12,168	1,991																																																																						
項目／年度	2018	2019	2020																																																																							
稼働率（単位：％）	74.1	72.9	69.3																																																																							
件数（単位：件）	7,534	7,777	6,906																																																																							
項目／年度	2018	2019	2020																																																																							
紹介率	77.0%	77.3%	70.0%																																																																							
逆紹介率	98.1%	96.2%	97.6%																																																																							
退院時加算	46.9%	45.0%	50.8%																																																																							
診療密度	1,234.2	1,282.5	1,329.9																																																																							
外保連指数	16.32	15.81	15.52																																																																							
内保連疾患割合	2.6%	2.7%	2.4%																																																																							

項目 No.	R 2 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				自己 評価	評価委員会の検証（案）																																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																									
		<p>3 未収金の発生防止対策等</p> <p><発生防止></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院説明の際に、入院決定時に概算費用の提示や福祉制度の説明などを行った。また、入院患者には原則として限度額認定証の提示を求めていることを説明し、その手続きを依頼した。 ・救急搬送患者に対しては、医療相談員が身元確認、保険確認を早期に行い、医療保険制度の活用を紹介するなど高額な患者負担額とならないよう努めた。 ・出産に伴う入院費については、出産一時金直接払制度を利用していただくよう徹底を図った。制度の利用が困難な事案については、医療相談員が早期に介入し、退院時の支払が出来るよう支援を行った。 <p><回収></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月2回、定期に督促状を發布し、早期に未収金回収に着手した。 ・督促状發布後、随時催告状を発送するとともに必要に応じ夜間電話催告や臨宅催告を行った。 ・未納者が受診した際には、面談による納付催告を実施した。 ・回収困難な未収金について、弁護士法人に回収業務を委託し、回収の実績を上げた。 ・診療費を分納により支払っている患者について、2020年8月より直接納付から金融機関口座振替への切替を進める取り組みを開始し、確実な収納に努めた。 <p>○回収実績（年度末現在）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委託金額（単位：千円）</td> <td>176,609</td> <td>187,462</td> <td>199,628</td> </tr> <tr> <td>回収金額（単位：千円）</td> <td>80,746</td> <td>85,310</td> <td>91,071</td> </tr> <tr> <td>回収率（単位：％）</td> <td>45.7</td> <td>45.5</td> <td>45.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>○未収金発生状況（翌年度5月末現在）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">2018</th> <th colspan="2">2019</th> <th colspan="2">2020</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				項目／年度	2018	2019	2020	委託金額（単位：千円）	176,609	187,462	199,628	回収金額（単位：千円）	80,746	85,310	91,071	回収率（単位：％）	45.7	45.5	45.6		2018		2019		2020		件数	金額	件数	金額	件数	金額									
項目／年度	2018	2019	2020																																								
委託金額（単位：千円）	176,609	187,462	199,628																																								
回収金額（単位：千円）	80,746	85,310	91,071																																								
回収率（単位：％）	45.7	45.5	45.6																																								
	2018		2019		2020																																						
	件数	金額	件数	金額	件数	金額																																					

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					自己 評価	評価委員会の検証（案）																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																										
			(千円)		(千円)		(千円)																					
		過年度分	400	44,535	357	46,723	348	42,633																				
		現年度分	279	33,424	263	22,281	232	15,183																				
		合計	679	77,959	620	69,004	580	57,816																				
		5 効率的な資金運用 ・金利の動向を注視し、日本高速道路保有・債務返済機構が発行する安定した債券を60億円取得した。保有している債券から発生した今年度の利息は、約7千万円だった。																										
27	<p>1 医薬品・診療材料等の購入方法の見直し及び適正な在庫管理の徹底</p> <p>医薬品及び診療材料については、全国自治体病院協議会と民間企業のベンチマークを活用した交渉を行うとともに、経費圧縮等に関する外部のアドバイザーを活用することにより、購入価格の削減に努める。</p> <p>また、SPD業務として各部署の棚卸を実施し、診療材料の適正な管理に努める。</p> <p>2 後発医薬品等の使用促進</p> <p>診療に支障を来さない後発医薬品への円滑な切り替えを推進し、数量ベースでの後発医薬品利用率85%以上を安定的に維持する。また、院外処方箋については、医師に一般名処方利用を啓発し、薬局での後発医薬品の使用促進に寄与する。</p>	<p>1 医薬品・診療材料等の購入方法の見直し及び適正な在庫管理の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品・診療材料等の購入方法の見直し、適正な在庫管理の徹底や後発医薬品（ジェネリック医薬品）の効率的採用等による費用の節減を図った。 ・医薬品については、アドバイザー活用による情報収集により継続した価格交渉を実施し、年間薬価差益が約2億8千万円となった。 ・診療材料について、ベンチマークを活用した価格交渉の結果、当初の予定金額より年間約1,630万円のコスト削減ができた。 ・継続して各部署における診療材料の定数品目及び数量の見直しを行い、効率的な管理を推進した。 <p>○医薬収益に対する材料費比率 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>材料比率 ※1</td> <td>29.4</td> <td>30.3</td> <td>30.4</td> </tr> <tr> <td>(内 薬品費)</td> <td>14.5</td> <td>15.0</td> <td>16.2</td> </tr> <tr> <td>(内 診療材料費)</td> <td>14.9</td> <td>15.3</td> <td>14.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 重症心身障がい児施設を除く</p> <p>2 後発医薬品等の使用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先発医薬品から後発医薬品に、院内コンセンサスを得ながら切替えを促進した。 ・院外処方箋については、医師に一般名処方利用を啓発し、薬局での後発医薬品の使用促進に寄与した。 <p>○後発医薬品関連の数値 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目／年度	2018	2019	2020	材料比率 ※1	29.4	30.3	30.4	(内 薬品費)	14.5	15.0	16.2	(内 診療材料費)	14.9	15.3	14.2	項目／年度	2018	2019	2020					IV	<p>高額医薬品が増えており、薬品費の在り方が今後の課題と思われる。</p> <p>アドバイザー活用による薬価差益や後発品の使用、ベンチマークを活用した価格交渉等評価できる。</p>
項目／年度	2018	2019	2020																									
材料比率 ※1	29.4	30.3	30.4																									
(内 薬品費)	14.5	15.0	16.2																									
(内 診療材料費)	14.9	15.3	14.2																									
項目／年度	2018	2019	2020																									

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																																																																												
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																																																																
		後発医薬品使用率 ※	86.4	86.1	87.7																																																																													
		一般名処方率	2.6	7.8	12.4																																																																													
		※ [後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量]+[後発医薬品の数量])																																																																																
28	3 予算（人件費の見積含む。）、収支計画及び資金計画 新たな第3期中期計画に基づく「2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、経常収支比率100%以上、医業収支比率100%以上（重症心身障がい児施設を除く。）、職員給与費対医業収益比率50%以下（重症心身障がい児施設を除く。）の達成を目指す。	<p>中期計画上の取組を確実に実施することで、業務運営の改善及び効率化を進めたが、COVID-19の影響等により経常収支比率97.8%、医業収支比率103.0%、職員給与費対医業収益比率54.2%となり、医業収支比率のみの達成となった。</p> <p>○経常収支比率・医業収支比率・職員給与費対医業収益比率 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>100.4</td> <td>99.7</td> <td>97.8</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率 ※</td> <td>104.4</td> <td>104.5</td> <td>103.0</td> </tr> <tr> <td>職員給与費対医業収益比率 (人件費比率) ※</td> <td>48.1</td> <td>48.4</td> <td>54.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※重症心身障がい児施設を除く</p> <p>○決算（2020年度） 単位：百万円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>計画額</th> <th>決算額</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 営業収益</td> <td>25,377</td> <td>25,039</td> <td>▲338</td> </tr> <tr> <td> 医業収益</td> <td>23,368</td> <td>21,467</td> <td>▲1,901</td> </tr> <tr> <td> 運営費負担金収益</td> <td>1,528</td> <td>1,559</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td> 重症心身障がい児施設収益</td> <td>200</td> <td>145</td> <td>▲55</td> </tr> <tr> <td> その他営業収益</td> <td>282</td> <td>1,868</td> <td>1,586</td> </tr> <tr> <td> 営業外収益</td> <td>226</td> <td>213</td> <td>▲13</td> </tr> <tr> <td> 運営費負担金収益</td> <td>97</td> <td>106</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td> その他営業外収益</td> <td>129</td> <td>106</td> <td>▲23</td> </tr> <tr> <td> 資本収入</td> <td>1,453</td> <td>1,555</td> <td>102</td> </tr> <tr> <td> 長期借入金</td> <td>841</td> <td>858</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td> 運営費負担金</td> <td>602</td> <td>680</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td> その他資本収入</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td> その他の収入</td> <td>—</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>			項目/年度	2018	2019	2020	経常収支比率	100.4	99.7	97.8	医業収支比率 ※	104.4	104.5	103.0	職員給与費対医業収益比率 (人件費比率) ※	48.1	48.4	54.2	区 分	計画額	決算額	増減	収入				営業収益	25,377	25,039	▲338	医業収益	23,368	21,467	▲1,901	運営費負担金収益	1,528	1,559	31	重症心身障がい児施設収益	200	145	▲55	その他営業収益	282	1,868	1,586	営業外収益	226	213	▲13	運営費負担金収益	97	106	9	その他営業外収益	129	106	▲23	資本収入	1,453	1,555	102	長期借入金	841	858	17	運営費負担金	602	680	78	その他資本収入	10	15	5	その他の収入	—	0	0	III	<p>コロナ禍の決算としては、比較的 effort された結果と思われる。</p> <p>COVID-19の影響を受け、人件費比率54.2%、経常収支比率97.8%であった。</p>
項目/年度	2018	2019	2020																																																																															
経常収支比率	100.4	99.7	97.8																																																																															
医業収支比率 ※	104.4	104.5	103.0																																																																															
職員給与費対医業収益比率 (人件費比率) ※	48.1	48.4	54.2																																																																															
区 分	計画額	決算額	増減																																																																															
収入																																																																																		
営業収益	25,377	25,039	▲338																																																																															
医業収益	23,368	21,467	▲1,901																																																																															
運営費負担金収益	1,528	1,559	31																																																																															
重症心身障がい児施設収益	200	145	▲55																																																																															
その他営業収益	282	1,868	1,586																																																																															
営業外収益	226	213	▲13																																																																															
運営費負担金収益	97	106	9																																																																															
その他営業外収益	129	106	▲23																																																																															
資本収入	1,453	1,555	102																																																																															
長期借入金	841	858	17																																																																															
運営費負担金	602	680	78																																																																															
その他資本収入	10	15	5																																																																															
その他の収入	—	0	0																																																																															

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証 (案)
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 				
		計	27,056	26,807	▲249	
		支出				
		営業費用	23,077	22,722	▲355	
		医業費用	22,247	21,961	▲286	
		給与費	10,703	11,105	402	
		材料費	7,680	7,155	▲525	
		経費	3,674	3,605	▲69	
		研究研修費	191	95	▲96	
		重症心身障がい児施設費用	406	367	▲39	
		一般管理費	424	393	▲31	
		給与費	378	350	▲28	
		経費	46	43	▲3	
		営業外費用	158	154	▲4	
		資本支出	4,745	9,316	4,571	
		建設改良費	3,088	1,622	▲1,466	
		償還金	1,549	1,587	38	
		その他資本支出	108	6,106	5,998	
		その他の支出	—	1	1	
		計	27,979	32,196	4,217	
		(注記 略)				
		○収支計画に対する実績 (2020年度) 単位: 百万円				
		区 分	計画額	決算額	増減	
		収益の部	25,561	24,798	▲763	
		営業収益	25,341	24,586	▲755	
		医業収益	23,327	21,434	▲1,893	
		運営費負担金収益	1,646	2,780	1,134	
		資産見返負債戻入	17	43	26	
		重症心身障がい児施設収益	200	145	▲55	
		その他営業収益	151	182	31	
		営業外収益	220	211	▲9	
		運営費負担金収益	97	106	9	

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 				
		その他営業外収益	123	104	▲19	
		臨時利益	—	0	0	
		費用の部	25,547	25,382	▲165	
		営業費用	24,302	24,084	▲218	
		医業費用	23,469	23,316	▲153	
		給与費	10,847	11,256	409	
		材料費	6,986	6,508	▲478	
		経費	3,365	3,350	▲15	
		減価償却費	2,094	2,113	19	
		研究研修費	177	87	▲90	
		重症心身障がい児施設費用	402	359	▲43	
		給与費	327	295	▲32	
		材料費	23	14	▲9	
		経費	51	48	▲3	
		減価償却費	—	0	0	
		研究研修費	1	0	▲1	
		一般管理費	432	408	▲24	
		給与費	386	364	▲22	
		減価償却費	3	4	1	
		経費	42	39	▲3	
		営業外費用	1,244	1,262	18	
		臨時損失	—	35	35	
		予備費	—	0	0	
		純利益	15	▲584	▲599	
		目的積立金取崩額	—	0	0	
		総利益	15	▲584	▲599	
		(注記 略)				
		○資金計画に対する実績（2020年度）				
			単位：百万円			
		区 分	計画額	決算額	増減	
		資金収入	35,722	36,568	846	

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			自己 評価	評価委員会の検証（案）																																																																																															
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																																																																																			
		<table border="1"> <tr><td>業務活動による収入</td><td>25,604</td><td>24,710</td><td>▲894</td></tr> <tr><td>診療業務による収入</td><td>23,568</td><td>21,810</td><td>▲1,758</td></tr> <tr><td>運営費負担金による収入</td><td>1,625</td><td>1,665</td><td>40</td></tr> <tr><td>その他の業務活動による収入</td><td>411</td><td>1,234</td><td>823</td></tr> <tr><td>投資活動による収入</td><td>55</td><td>340</td><td>285</td></tr> <tr><td>運営費負担金による収入</td><td>45</td><td>94</td><td>49</td></tr> <tr><td>その他の投資活動による収入</td><td>10</td><td>246</td><td>236</td></tr> <tr><td>財務活動による収入</td><td>1,398</td><td>1,443</td><td>45</td></tr> <tr><td>長期借入による収入</td><td>841</td><td>858</td><td>17</td></tr> <tr><td>その他の財務活動による収入</td><td>557</td><td>584</td><td>27</td></tr> <tr><td>前事業年度からの繰越金</td><td>8,666</td><td>10,073</td><td>1,407</td></tr> <tr><td>資金支出</td><td>35,722</td><td>36,568</td><td>846</td></tr> <tr><td>業務活動による支出</td><td>23,235</td><td>22,517</td><td>▲718</td></tr> <tr><td>給与費支出</td><td>11,405</td><td>11,793</td><td>388</td></tr> <tr><td>材料費支出</td><td>7,705</td><td>7,079</td><td>▲626</td></tr> <tr><td>その他の業務活動による支出</td><td>4,125</td><td>3,645</td><td>▲480</td></tr> <tr><td>投資活動による支出</td><td>3,196</td><td>7,832</td><td>4,636</td></tr> <tr><td>有形固定資産の取得による支出</td><td>3,088</td><td>1,783</td><td>▲1,305</td></tr> <tr><td>その他の投資活動による支出</td><td>108</td><td>6,049</td><td>5,941</td></tr> <tr><td>財務活動による支出</td><td>1,549</td><td>1,587</td><td>38</td></tr> <tr><td>長期借入金の返済による支出</td><td>1,188</td><td>1,227</td><td>39</td></tr> <tr><td>移行前地方債償還債務の償還による支出</td><td>360</td><td>360</td><td>0</td></tr> <tr><td>その他の財務活動による支出</td><td>—</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>翌事業年度への繰越金</td><td>7,743</td><td>4,630</td><td>▲3,113</td></tr> </table>	業務活動による収入	25,604	24,710	▲894	診療業務による収入	23,568	21,810	▲1,758	運営費負担金による収入	1,625	1,665	40	その他の業務活動による収入	411	1,234	823	投資活動による収入	55	340	285	運営費負担金による収入	45	94	49	その他の投資活動による収入	10	246	236	財務活動による収入	1,398	1,443	45	長期借入による収入	841	858	17	その他の財務活動による収入	557	584	27	前事業年度からの繰越金	8,666	10,073	1,407	資金支出	35,722	36,568	846	業務活動による支出	23,235	22,517	▲718	給与費支出	11,405	11,793	388	材料費支出	7,705	7,079	▲626	その他の業務活動による支出	4,125	3,645	▲480	投資活動による支出	3,196	7,832	4,636	有形固定資産の取得による支出	3,088	1,783	▲1,305	その他の投資活動による支出	108	6,049	5,941	財務活動による支出	1,549	1,587	38	長期借入金の返済による支出	1,188	1,227	39	移行前地方債償還債務の償還による支出	360	360	0	その他の財務活動による支出	—	0	0	翌事業年度への繰越金	7,743	4,630	▲3,113			
業務活動による収入	25,604	24,710	▲894																																																																																																		
診療業務による収入	23,568	21,810	▲1,758																																																																																																		
運営費負担金による収入	1,625	1,665	40																																																																																																		
その他の業務活動による収入	411	1,234	823																																																																																																		
投資活動による収入	55	340	285																																																																																																		
運営費負担金による収入	45	94	49																																																																																																		
その他の投資活動による収入	10	246	236																																																																																																		
財務活動による収入	1,398	1,443	45																																																																																																		
長期借入による収入	841	858	17																																																																																																		
その他の財務活動による収入	557	584	27																																																																																																		
前事業年度からの繰越金	8,666	10,073	1,407																																																																																																		
資金支出	35,722	36,568	846																																																																																																		
業務活動による支出	23,235	22,517	▲718																																																																																																		
給与費支出	11,405	11,793	388																																																																																																		
材料費支出	7,705	7,079	▲626																																																																																																		
その他の業務活動による支出	4,125	3,645	▲480																																																																																																		
投資活動による支出	3,196	7,832	4,636																																																																																																		
有形固定資産の取得による支出	3,088	1,783	▲1,305																																																																																																		
その他の投資活動による支出	108	6,049	5,941																																																																																																		
財務活動による支出	1,549	1,587	38																																																																																																		
長期借入金の返済による支出	1,188	1,227	39																																																																																																		
移行前地方債償還債務の償還による支出	360	360	0																																																																																																		
その他の財務活動による支出	—	0	0																																																																																																		
翌事業年度への繰越金	7,743	4,630	▲3,113																																																																																																		
29	<p>1 育児・介護との両立支援や離職防止・復職支援体制の充実</p> <p>24時間保育や病児・病後児保育を継続的に実施することで、育児中の職員が安心して勤務できる環境をつくる。また、院内保育所の在り方について職員・保育所との意見交流を図り、保育の質の向上や運営体制の充実を行うな</p>	<p>1 育児・介護との両立支援や離職防止・復職支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児・病後児保育については、2012年2月から24時間保育を継続している。また利用者についても、定員を増員したり、利用資格の拡大を実施したことで、多くの職員が利用できている。 ・ハラスメント防止に向けて、3つの院内相談窓口の設置や専用アドレスの運用を継続した。 	IV	<p>COVID-19に対応した職員への手当の支給は評価できる。</p>																																																																																																	

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		自己 評価	評価委員会の検証（案）																																											
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 																																														
	<p>ど、環境整備に取り組む。</p> <p>離職防止としては、看護師定着プログラムを継続的に実施する。</p> <p>また、ワークライフバランスの実現に向け、「女性職員が継続して働ける病院づくり委員会」が行った働きやすい職場環境づくりアンケート調査結果の意見を踏まえ、女性職員が働きやすい労働環境の改善について検討する。</p> <p>さらに、仕事と生活をともに充実したものとするため、1箇月単位の変形労働時間制の利点を活かし、時間外勤務時間の縮減、年次有給休暇や特別休暇の取得促進、代休の取得や週休日の振替の徹底等、適切な労働時間の管理の下、職員の家庭環境に配慮する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女性職員が働きやすい労働環境への改善に向け、「女性職員が継続して働ける病院づくり委員会」にて、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画及び女性活躍推進法に基づく行動計画を更新した。 ・職員が各種休暇や各種手当を申請しやすいよう休暇の手引き及び諸手当届出のためのガイドブックを更新した。 ・衛生・労働安全委員会で、長時間残業職員数を報告し、縮減するよう啓発に努めた。 ・看護師のみならず医師やコメディカルについても、変形労働時間制による勤務を採用することにより、時間外勤務時間の縮減に努めた。 ・医局会や看護師長会を通じ、代休の取得や週休日の振替の徹底を図った。 <p>○院内保育所の運営状況（年度末現在）</p> <p>・入所施設（こばと） 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入所者数</td> <td>55</td> <td>39</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>保育士数</td> <td>21</td> <td>19</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>・病児・病後児保育施設（バンビ） 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ利用者数</td> <td>206</td> <td>131</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>保育士・看護師数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>○職員1人あたりの休暇、時間外勤務状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年次有給休暇（単位：日／年）</td> <td>4.6</td> <td>6.4</td> <td>7.4</td> </tr> <tr> <td>時間外勤務（単位：時間／月）</td> <td>14.6</td> <td>14.7</td> <td>11.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>○代休等取得状況 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>代休取得及び週休日振替数</td> <td>793</td> <td>1,181</td> <td>726</td> </tr> </tbody> </table>	項目／年度	2018	2019	2020	入所者数	55	39	34	保育士数	21	19	16	項目／年度	2018	2019	2020	延べ利用者数	206	131	86	保育士・看護師数	3	3	3	項目／年度	2018	2019	2020	年次有給休暇（単位：日／年）	4.6	6.4	7.4	時間外勤務（単位：時間／月）	14.6	14.7	11.9	項目／年度	2018	2019	2020	代休取得及び週休日振替数	793	1,181	726		
項目／年度	2018	2019	2020																																													
入所者数	55	39	34																																													
保育士数	21	19	16																																													
項目／年度	2018	2019	2020																																													
延べ利用者数	206	131	86																																													
保育士・看護師数	3	3	3																																													
項目／年度	2018	2019	2020																																													
年次有給休暇（単位：日／年）	4.6	6.4	7.4																																													
時間外勤務（単位：時間／月）	14.6	14.7	11.9																																													
項目／年度	2018	2019	2020																																													
代休取得及び週休日振替数	793	1,181	726																																													
31	<p>1 病棟などの施設等の計画的な整備</p> <p>総合サポートセンターの整備を完了させるとともに、「南棟」建設工事にかかる業者選定及び契約を行い、工事に着手する。4階東病棟における新生児連れ去り防止対策</p>	<p>1 病棟などの施設等の計画的な整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者サービス向上のため新設が決まった総合サポートセンターの工事が完了した。 ・放射線治療装置（リニアック）の更新に伴う南棟の整備について、業者選定 	IV	<p>NICU病床やリニアック更新、COVID-19の診療について評価できる。</p>																																												

項目 No.	R 2 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証（案）									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●） 	自己 評価										
	<p>として、入退室管理システムの設置を行う。</p> <p>また、老朽化した機械設備及び電気設備の更新に向け、更新計画の策定を開始する。当年度においては、設備台帳作成を行う等、次年度以降に実施する実態調査に向けた準備を行う。</p> <p>2 医療機器の計画的な更新・整備</p> <p>主要医療機器の更新・整備計画に基づき、耐用年数を経過した医療機器及び新たに購入する医療機器については、県民の医療需要、費用対効果、医療技術の進展等から総合的に判断し、当センターとして担うべき機能の強化が図られるよう、計画的な更新及び整備を図る。</p>	<p>及び契約を行い、真和寮（看護師寄宿舎）解体工事に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症な新生児患者に対応するため、NICU病床増床に必要な工事を迅速に行った。 ・4階東病棟における新生児連れ去り防止対策として、入退室管理システムの設置を行った。 ・老朽化した機械設備及び電気設備の更新に向け、更新計画の策定を開始した。 <p>2 医療機器の計画的な更新・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器について、更新計画の見直しを行い、計画的な整備を実施した。 ・COVID-19の対応に必要な医療機器を迅速に納入した。 <p>○医療機器・施設整備に関する総投資額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>投資額</th> <th>財 源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院施設、 医療機器等整備</td> <td>259 百万円</td> <td>設立団体からの長期借入金等</td> </tr> <tr> <td></td> <td>458 百万円</td> <td>COVID-19 関連の補助金</td> </tr> </tbody> </table>		投資額	財 源	病院施設、 医療機器等整備	259 百万円	設立団体からの長期借入金等		458 百万円	COVID-19 関連の補助金		
	投資額	財 源											
病院施設、 医療機器等整備	259 百万円	設立団体からの長期借入金等											
	458 百万円	COVID-19 関連の補助金											
32	<p>1 内部統制の取組</p> <p>内部監査やリスク評価等の結果を法人規程、マニュアル、手順書等に適切に反映させ、継続的に見直しを行うことで、内部統制の充実強化を図る。</p> <p>2 内部統制に対する監査及び評価</p> <p>業務の内部監査や内在するリスクを洗い出し、その評価を継続的に実施する。</p> <p>3 災害等危機管理事案発生時における理事長の統制環境の充実強化</p> <p>災害等危機管理事案発生時においては、情報共有を密にし、理事長のリーダーシップにより迅速かつ適切に対応する。また、その情報共有体制について継続的に点検・見直しを行う。</p>	<p>1 内部統制の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部監査やリスク評価等の結果を法人規程、マニュアル、手順書等に適切に反映させ、継続的に見直しを行うことで、内部統制の充実強化を図った。 <p>2 内部統制に対する監査及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスク管理委員会を開催し、法人におけるリスク管理の取組み方針を定めた。それをもとに、各部署へのヒアリング等を行い、現状や今後の対応を含めたリスク事象リストを作成し、各部署において対応を行った。 <p>3 災害等危機管理事案等発生時における理事長の統制環境の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県医療事故調査等支援団体連絡協議会に参加し、医療事故の現状把握と関係機関との情報共有を行った。 	Ⅲ	内部統制の充実は、今後の在り方として重要な部分であり、引き続き努力されたい。									